

# 平成25年度 部局長マネジメント方針

きたぐち えつじ  
消防局長 北口悦司



## 仕事に対する基本姿勢

都市構造の変化により災害の様態は複雑多様化し、また、高齢化の進展により救急需要も増え続けております。さらに、南海トラフ巨大地震等の発生も危惧されております。

このような状況の中、市民の皆様の生命と財産を火災等の災害から守るため、消防団並びに市民の皆様とともに「安全安心なまちづくり」を推進し、「市民生活の安全確保」に努めてまいります。

## 平成25年度に取り組む重点課題

### 1 救急体制の強化

- ・平成24年中の救急件数は29,059件で過去最多となり、増加する救急需要に対応するため、北東部方面出張所及び中消防署に救急隊を増隊し、現在の8隊から10隊へ救急体制を強化します。
- ・事故などにより心臓や呼吸が止まった際、近くに居た人により心肺蘇生やAED（自動体外式除細動器）による応急手当が適切に実施されれば、大きな救命効果が得られますので、応急手当普及啓発を推進します。

### 2 防災活動拠点の整備

- ・南海トラフ巨大地震等に備え、防災活動拠点としての機能を確保するため、西消防署建替えに係る設計業務を実施するとともに、中新開出張所、足代出張所及び若江出張所の平成27年度までの耐震化に向け、その整備方針などを決定します。

- ・消防団の防災力の向上を図るため、消防団活動拠点である消防団屯所を建替えます。

### 3 予防行政の強化

- ・放火による火災（放火の疑いを含む。）は、全国的にも火災原因の1位であり、昨年本市においても連続放火による火災が多発しました。このことから、自治会など各種団体と連携を密にするとともに、消防車によるパトロール、消防訓練、立入検査などあらゆる機会をとらえて、市民の皆さんに放火火災に対する注意喚起を行い、放火されない環境づくりなど放火火災防止対策を推進し、放火による火災を低減します。
- ・平成24年5月福山市ホテル火災や平成25年2月長崎市グループホーム火災では多数の死傷者が発生しました。これを踏まえ、ホテル、社会福祉施設等不特定多数の人が利用する施設への立入検査等防火指導を徹底し、消防法令違反のあるものに対しては重点的に是正の徹底を図ります。
- ・平成24年中の住宅火災の件数（63件）は、建物火災の件数（113件）の約6割、また、放火自殺者等を除く住宅火災による死者数（5人）は、建物火災による死者数（6人）の約8割となっています。このため、住宅火災警報器の設置促進、一般家庭及びひとり暮らし高齢者宅防火診断の実施等住宅防火対策を推進し、住宅火災及び住宅火災による死者数を低減します。

### 4 震災対策の強化

- ・大規模地震発災時の迅速かつ効率・効果的な体制を確保するため、消防局震災計画の見直し及び災害支援車型（1台の車両で火災や地震等の災害状況に応じた資機材を収納したコンテナを災害現場へ搬送する車両）等震災用資機材を整備し、緊急消防援助隊や防災関係機関との連携も視野に入れた震災活動体制を強化します。



## 5 消防救急無線のデジタル化

- ・大規模地震等発生時の広域通信の確保や、災害現場における各種情報保護のため、現行のアナログ方式からデジタル方式への移行を推進します。

## 6 防火防災意識の高揚

- ・安全で安心なまちづくりのためには、市民一人ひとりが常に防火防災に関心を持ち、災害が発生した場合に的確に対処できる知識や技術を身につけておくことが大切です。このことから防災学習センターや消防訓練などあらゆる機会をとらえて、防火防災の知識や必要性・重要性を啓発するなど防火防災研修に取り組みます。